八木健の川柳アート 66

今月の八木健

マスコミを批判して

マスコミを批判できるのは川柳だけである。最近の民主党代表選挙が好例。小沢さんと菅さんの大差を予想したマスコミはない。予想と違ったら……、だんまり。

マスコミは具合悪けりゃ知らんぷり

特選

選者・川柳アート八木健（月刊川柳総合誌「川柳マガジン」元選者）

言い訳を捜す男の目が泳ぐ

「ううんと、確かあれは……」などと接続詞を使いながらアリバイを捏造する。男なら誰でも身に覚えのあることだが。

大西　知子（松山市）

佳作

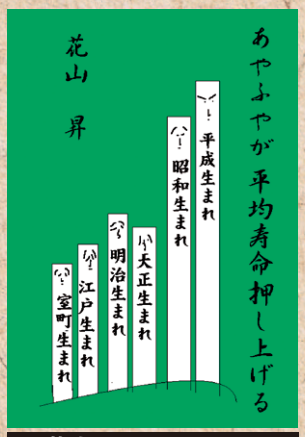
四人家族皆ケータイと添い寝する

テレビがなくても困らない。新聞がなくても困らない。妻がいなくても、困らない。夫はいない方がいい。生涯の伴侶・携帯がないと困る。

村田　節子（八幡浜市）

あやふやが平均寿命押し上げる

人間の天寿は百二十歳。はるかに超えて江戸時代に生まれた人が生きたままで……なんて、びっくりですね。平均寿命の実態が暴露されちゃった。



花山　昇（松山市）

太陽の温度調節用リモコンないか

温度調節機を太陽に取り付けるのは難しいです。お気持ちは分かりますが、無いものねだりですね。えっ？　そんなこと知ってて書いた川柳ですか。

渡辺つや子（今治市）

携帯のゆび口ほどにものを言い

口べたを自認する人ほど携帯メールに頼る。頻繁なやりとりで大方の意思疎通が可能である。聞いてないとは言わせない送信記録がある。

石原　康正（松山市）

本コーナーが待望の単行本化
好評発売中!!

運動会用にとっておきたいほどの晴れ

その逆もある。干ばつにとっておきたいほどの雨。この句は不可能を言いながら、もしかしたらという願望に子や孫への愛情があふれる作品ですね。

愛　子（四国中央市）

古今の名句

うちわ売り首へかけると残暑なり

行商人の中に「うちわ売り」というのがあった。真夏が過ぎて残暑のころになると、うちわ売りをやめて花火売りになる。首へかけるのは花火の箱である。

古川柳

「八木健の川柳アート」では、川柳を募集しています。テーマは自由。未発表のオリジナル作品に限ります。採用された作品には八木さんが「川柳アート」を作り、本誌に掲載の上、採用者にプレゼントいたします。応募方法は36ページをご覧ください。